



# 緑の地球新聞

第167号

2025年1月5日発行：公益財団法人 緑の地球防衛基金

## いま名もない砂漠がふえている 私たちは次の世代へ緑の地球を贈ろう

〒104-0033 東京都中央区新川2-6-16 馬事畜産会館203  
☎ 03 (3297) 5505 Fax 03 (3297) 5507  
URL: <https://green-earth-japan.net/>  
e-mail: [defense@green.email.ne.jp](mailto:defense@green.email.ne.jp)  
郵便振替口座 00110-9-161182 定価 ¥150

## 「地球にやさしいカード」助成事業 第16回研究・活動報告会を開催

緑の地球防衛基金は、2024年11月15日（金）、東京・中央区新川の馬事畜産会館2階会議室において「地球にやさしいカード」助成事業第16回研究・活動報告会を開催しました。「NPOクワガタ探検隊」及び「尾瀬自然保護ネットワーク」の2団体から活動報告が行われ、多数の出席者が熱心に聞き入る中、盛会のうちに終了しました。

最初に、「NPOクワガタ探検隊」の西義史理事長及び西美和事務局長から、「未来の森の守り人を育成する」と題して、活動報告が行われました。



(写真1) 活動報告を行うNPOクワガタ探検隊の西義史理事長

当該団体は、北摂大阪の里山を舞台に、「共生・畏敬・感謝」の自然観に基づき、未来を担う子どもたちに、かけがえのない里山への興味・

関心を啓発するための活動を、32年間にわたって実践してきました。

活動報告会では、①本物の動植物を「五感」で体感するため、里山の四季を巡る「里山探検活動」、②創作紙芝居の上演による「自然保護啓発活動」、③各家庭で飼育増殖したカブト虫&クワガタ虫を元の里山に帰す「里親塾活動」、④行政や企業と協働して河川の清掃などを行う「地域貢献協働活動」、⑤樹液場となる森づくりのためにクヌギ、コナラ苗を植える「植樹活動」などの諸活動が紹介されました。

また、これまでの活動の具体的な成果として、①「五月山市民の森」に植樹したクヌギ苗木によって樹液場が出来ていること、②「箕面国定公園エキスポの森」等に「カブト虫幼虫ベッド」を5か所造成し、「里親塾活動」で増殖飼育した幼虫が、翌年成虫となって元の里山に帰る仕組みが出来ていること、③地域貢献活動

の「猪名川クリーン（ゴミ拾い）作戦」が18回目を数え、昨年はダイハツ自動車や全日空、国土交通省を含め182人の参加を得て実施出来たこと、④手作りの創作絵本が全22巻を数え、毎回1,200冊を印刷し、近隣の全小・中学校に寄贈し活用してもらっていること、⑤年間活動総括誌の発行が全27巻を数えるまでになっていることなどの成果が紹介されました。

また、活動報告の中で、西美和事務局長による創作絵本の紙芝居の実演や、西義史理事長が詠まれた多数の「クワガタ短歌」が披露されるなど、楽しい発表になりました。

次に、「尾瀬自然保護ネットワーク」の磯部義孝理事長及び大山昌克副理事長から、「尾瀬の自然を守る」と題して、活動報告が行われました。



(写真2) 活動報告を行う尾瀬自然保護ネットワークの磯部義孝理事長

当該団体は、「尾瀬の自然を後世に伝える」をモットーに、尾瀬国立公園において長年、①気温や降水、積雪などの環境チェック、②侵入外来植物調査や野鳥基礎調査などの調査事業、③ハイカーへの入山アドバースなどの啓発活動、④自然保護活動の後継者育成研修として尾瀬アカデミーの開講など、幅広く自然保護啓発活動を実施してきました。一方で近年は、観光立国政策の一環として国立公園内に観光客用の宿泊施設の建設が始まる問題などが生じています。

活動報告会では、先ず磯部義孝理事長から、尾瀬国立公園の概要が紹介されました。

尾瀬は全地域が特別地域に指定されている国内屈指の「生き物の博

### あけましておめでとーございませす

昨年を振り返ると、恐ろしい問題の連続でありました。

ウクライナとロシアとの紛争は2年にわたって続いています。ウクライナを支援するEU連合+米国の対ロシアを支援する北朝鮮+中国との対決に発展しました。さらに、イスラエルとパレスチナとの紛争は、それぞれの支援国家であるイラン、レバノンと米国の紛争にまで拡大しています。

一方、地球温暖化による異常気象

物館」です。1,400種以上の植物や165種以上の鳥類をはじめとする「生物多様性の宝庫」であり、絶滅危惧種の数が、植物で250種以上、鳥類で18種を数えるなど、「希少種の宝庫」でもあります。

尾瀬にはこれまでも水力発電用ダム計画や観光道路建設計画が持ち上がるなど開発の危機がありました。しかしその都度、学者や住民の反対運動、当基金の初代会長となつた大石武一環境庁長官(当時)の英断などによって開発が阻止されてきたことが紹介されました。その上で、「国宝級の尾瀬の自然を次世代にきちんと伝えていきたい」との「尾瀬自然保護ネットワーク」の考えや活動の現状が紹介されました。

また、大山昌克副理事長から、

は、世界各地に予想をはるかに超える災害が発生させています。この小さな地球に影響を及ぼせ

### 「新年のごあいさつ」

公益財団法人 緑の地球防衛基金

理事長 大石 正光

る人間の責任は重大なはずなのに、その責任を担うはずの人間の身勝手な行動に、「薄氷の思い」で震えが

環境省による訪日外国人誘致策である「国立公園満喫プロジェクト」が進められてきた経緯やその内容等について、詳細な説明がありました。さらに、2031年までに全国35か所の国立公園全てで、高級ホテルの誘致が進められようとしている現状に対して、強い危惧の念が示されました。

2 団体が活動報告を終えた後、三井住友カード株式会社の堀慎太郎部長が挨拶に立ち、「私自身3度目の報告会になるが、毎回大変勉強になる。クワガタ愛に溢れた西ご夫妻の活動に感銘を受けると同時に、国立公園満喫プロジェクトの説明に驚きを覚えた。足下で起きている変化を認識することの重要性を痛感するとともに、一度壊れると元に戻らな

止まりません。

この難題のパズルを解く人を求めています!!

2025年の新年にあたり、この現実を見つめ直してほしい。

どうか本年は、紛争のない、感染症などが蔓延しない、しあわせに暮らせる地球でありますよう、願わずにはいられません。

当財団は、多くの皆様からの会費やご寄付によって支えられておりますことに感謝申し上げます。

皆様にとって、本年も良い年になりますよう、お祈り申し上げます。

い。守っていくことの難しさを認識した。」旨の発言がありました。

最後に、当基金の大石正光理事長から締めくくりの挨拶があり、「16回目の活動報告会を無事開催でき、多数の皆様にご出席賜わったことに感謝。多くの団体が地域住民とタイアップして地域に根ざした活動を実践しているが、「地球にやさしいカード」の助成を通じて、多少なりともその活動を応援できたのかなと感じている。今後ともご支援をよろしくお願ひします。」旨の発言がありました。

研究・活動報告会は、全体で2時間余の長時間にわたりましたが、多数の出席者が熱心に聞き入り、盛会のうちに終了しました。



(写真3) 締めくくりの挨拶を行う大石正光当基金理事長

# 地球温暖化に関する最近のトピックス

## 1. 増え続ける世界の温室効果ガス排出量

2023年の世界の温室効果ガス排出量が、前年比1.3%増加し、過去最多の571億トン(CO<sub>2</sub>換算)になったと、国連環境計画(UNEP)が2024年10月公表しました。

国・地域別では、EUが対前年比7.5%、米国が1.4%、排出量が減少した一方、インドが6.1%、中国が5.2%、それぞれ排出量が増加しました。(表参照)

同時に、現在各国が策定している温室効果ガス排出削減目標が不

表 2023年温室効果ガス国別排出量

世界合計	571億トン (+1.3%)	シェア 100%
中国	160億トン (+5.2%)	28.0%
米国	59億トン (-1.4%)	10.3%
インド	41億トン (+6.1%)	7.2%
EU	32億トン (-7.5%)	5.6%
ロシア	26億トン	4.6%
日本	11億トン	1.9%

(出典：国連環境計画を元に作成)

十分であり、目標を達成しても、2030年の温室効果ガス排出量は2019年比4~10%の減少に止まり、温暖化対策の国際的枠組みである「パリ協定」が定める42%削減目標とは大きな隔たりがあることに懸念が示されました。

「パリ協定」は、世界の平均気温の上昇幅を、産業革命前と比べて1.5度以内に抑えることを目標としています。しかし、各国が現在の削減目標を達成しても、平均気温の上昇幅は1.5度以内には止まらず、今世紀中に2.6~2.8度上昇すると推計されています。さらに実際の削減ペースは、この削減目標を下回って推移しているため、このままでは、世界の平均気温は今世紀末には3.1度上昇し、地球環境に大きな影響を及ぼすと警告しています。

## 2. 観測史上最高を記録する世界の平均気温

世界中で猛暑や干ばつなどによる気象災害が頻発し、大きな被害をもたらしています。日本でも2024年夏、酷暑が続きましたが、世界気象機関(WMO)は、2024年11月に、2024年1~9月の世界平均気温が、産業革命前に比べ1.54度高かったことを公表しました。

短期間ではあるものの、世界平均気温が、「パリ協定」が目標とする気温上昇幅(1.5度以内に抑える)を上回ったのです。

世界気象機関は「パリ協定が掲げた目標が、大きな危機に直面している」と強く警告を発しています。

## 3. COP29が開催され、気候資金目標額引き上げが合意

2024年11~12月、アゼルバイジャンにおいて、COP29(国連気候変動枠組み条約第29回締約国会議)が開催されました。

COP29の中心議題であり最も対立したのは、途上国の温暖化対策を支援するための「気候資金」でした。

気候変動の悪影響による被害、例えば干ばつが原因の山火事や洪水の多発などが、多くの途上国でも頻発しており、その対策のための途上国支援が「気候資金」です。

COP29では、これまで年1千億ドル(日本円で約15兆円)だった支援目標を、「2035年までに少なくとも年間3千億ドルにすること」が合意されました。

しかし、資金負担の大きさを巡って、先進国と途上国の意見の隔たりは大きく、合意には至ったものの、詳細は先送りされました。途上国側は、気候災害に備えるためのインフラ整備や再生可能エネルギーの導入などに、2025年以降年間1兆ド

ル以上の支援が必要と主張しており、不満は大きいままのようです。

また、合意に至ったものの、「気候資金」を誰がいくら負担するのか、明確にされていません。2025年にブラジルで開催されるCOP30での最大かつ困難な議題になるのではないかと思われまます。

温室効果ガス排出量の増大や、世界平均気温の上昇に連れて自然災害が頻発し、被害が格段に大きくなってきている現状に鑑みれば、誰もが温暖化対策を強化する必要性に異を唱えないでしょう。

しかし、巨額の資金負担を誰が行うのか。議論は簡単ではありません。

世界第2の温室効果ガス排出国でもある米国は、1月にトランプ大統領が就任しますが、新政権発足後のCOP再離脱が確実視されています。

世界最大の温室効果ガス排出国で、世界第2の経済大国である中国は、途上国であるとの立場を変えていません。そのため気候資金への拠出義務は課されていません。今回はさすがに自発的に資金を提供する意向を示していますが、それによって拠出義務が生じるわけではありません。

EU主要国も、昨今、政治的混乱や経済疲弊が目立ちます。

難題だらけですが、温暖化対策は待ったなしです。各国の利害や立場を超えた協力が強く望まれます。

### 使用済み切手等協力者

(9月16日～12月15日敬称略)

一柳清美、慶田紫都子、日下統義、黒澤一雅、小林茜音、佐久間孝夫、富沢千代、中野寿人、羽生佳代子、浜口恵理奈、林央、福西邦子、測上末人、松原好彦、山口元子、吉水咲子、絵手紙教室、吉村淳代、匿名

### 同法人・団体協力者

(9月16日～12月15日敬称略)

(株)朝日工業社、(株)アップワード、インフォコム(株)、栄久電気工業(株)、荏原商事(株)、(有)大串、柏市国際交流協会、神奈川少年友の会、(株)神奈川保健事業社、木島法律事務所、グリーン・サマール(株)、久留須由紀司法書士事務所、齊藤建設(株)、幸商事(株)、

三洋テクノマリン(株)、シーキューブ(株)、(医) 静和会中山病院、ダイジク(株)、大成有楽不動産(株)、大成有楽不動産(株)名古屋支店、タチバナ工業(株)、中央技研(株)、(社) 名古屋市社会福祉協議会、ニッパツ・メック(株)、(一財) 日本品質保証機構、練馬城南住宅組合、ハンドメイドLoux、富士通(株)、ブリヂストン労働組合横浜支部、前澤給装工業(株)、(株)ローソ

## 2025年度「地球にやさしいカード」の助成13団体が決まる

2025年度の「地球にやさしいカード」の助成対象団体について、昨年8～9月の2か月間、ホームページ等で広く公募を行った結果、19団体から応募がありました。

当基金では、有識者等で構成する審議委員会を11月に開催し、19団体の事業の助成の是非を慎重に審査するとともに、同月に理事会を開催し、次の13団体の事業を、2025年度の助成事業に決定しました。

- ① NPO法人熱帯森林保護団体 (ブラジル・カポトジャリーナ先住民保護区の消火、防火を目的とする「消防団事業」)
- ② NPO法人尾瀬自然保護ネットワーク (自然環境教育事業、尾瀬の自然保護に関する調査研究事業、自然環境保護に関する普及啓発活動)
- ③ NPO法人立山自然保護ネットワーク

- ク (立山黒部アルペンルート沿線の外来植物除去事業及び啓発活動)
- ④ NPO法人夏花 (石垣島白保地区におけるサンゴ礁保全活動及び環境教育)
- ⑤ 認定NPO法人ヒマラヤ保全協会 (ネパール中部農山村における果樹栽培・有用植物利用の持続型アグロフォレストリーの展開)
- ⑥ NPO法人サンクチュアリエヌピーオー (遠州灘海岸におけるアカウミガメと産卵地の環境保護と調査活動)
- ⑦ NPO法人桶ヶ谷沼を考える会 (トノボの種の保全と自然環境を守る)
- ⑧ 川原井自然学校(旧上総自然学校) (トノボの保護区を守る)
- ⑨ 認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金 (アフリカゾウ密猟防止)
- ⑩ 真庭遺産研究会 (真庭清流自然学校による日本最大級のオオサンショウウオの生息地での環境保全活動)
- ⑪ 熱帯林行動ネットワーク (インドネ

- シアにおけるオランウータン保護活動の基盤強化に向けた植林活動)
- ⑫ NPO法人NPOクワガタ探検隊 (大都市大阪の里山に舞え！未来の森の守り人)
- ⑬ NPO法人 Hope & Faith International (ネパールビドール市で増える放置畑を有効利用し、アグロフォレストリーの景観を維持発展させる環境保全活動)

### 「地球にやさしいカード」の仕組み

三井住友カード株式会社の「地球にやさしいカード」は、普通に利用するだけでカード売上高の0.5%相当額が当基金に寄付され、当基金を通じて様々な環境保護団体に助成されます。カード利用者にとって、「手軽に社会貢献できる」画期的な仕組みです。

当基金は、今後も三井住友カード株式会社と協力し、国内外で様々な環境保護活動を行う団体を支援していく考えです。

### 事務局からのお願い

全国の皆さま、いつも使用済み切手などをお送り下さりありがとうございます。当基金では、皆さまからお送りいただいた「未使用/使用済み切手」「未使用/書き損じハガキ」「外国コイン&紙幣」の売上金を植林活動等に役立てています。この時期、余った年賀状、書き損じの年賀状がありましたら、ご協力の程お願いいたします。

### たくさんの使用済み切手などありがとうございました

使用済み切手等売上表 (9月16日～12月15日)	
未使用テレホンカード	0円
未使用/使用済み切手	269,336円
未使用/書き損じハガキ	38,280円
外国コイン&紙幣	430円
合計	308,046円

### 寄付協力者

(9月16日～12月15日敬称略)

飯塚友康、石本信一、榎本邦彦、大淵清孝、紙本園恵、染矢武尊、田中和子、幅田博樹、福田順子、ポランティアペンダー協会、三井住友カード(株)、森口修

ンストアー100、ワミレスコスメティックス(株)